

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 27 年度第 3 回情報セキュリティ研究講習会運営委員会議事記録

- I. 日 時：平成 28 年 3 月 18 日(水) 11：00 から 13：00
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局会議室
- III. 参加者：太原担当理事、浜委員長、入澤委員、市川委員、佐久間委員、島崎委員、服部委員、西松委員、柴田委員 (Skype)
(事務局) 井端事務局長、野本 (記)

IV. 検討事項

8 月に開催した大学情報セキュリティ研究講習会の参加者アンケートをもとに結果を振り返り来年度の計画に向けて意見交換を行った。

(1) 今年度の振り返りとして以下のような意見があった。

- ・ 参加者のリピート率は、12名の15%であった。
- ・ アンケート意見では、総合演習の時間が少なかったとの意見が多かった。また、他大学ではどのような対応になっているかより交流を求めている場合もある。
- ・ 組織対応やマネジメント中心で技術トレンドにも重点を置いた構成としていた。攻撃事例の設定・インシデント対応の仕方、対策組織 CSIRT 紹介、ベンチマーク試行などが実施でき、理解促進のための教材の工夫がもう少し出来る可能性があった。
- ・ テクニカルコースでは、初動からの対応が良かったと思われる。机上演習から総合演習への統一感のあるつながりに工夫の余地があると考ええる。総合演習で汎用性ある部分と今おきている部分の2パターンを設定しても良かったと思われる。
- ・ マネジメントでは、CSIRT 説明から討議とベンチマークテストを進めたが、情報提供からつながりが持てたことで議論に入りやすかったが、参加者の立場の違いからテーマを絞って与えないと討議が円滑に進まないことが確認され、討議結果の共有時間が取れなかったことで紙掲示に留めた。

(2) 来年度に向けた検討として以下のような意見があった。

- ・ コンプライアンスのケーススタディも含めてはどうか、漏洩が発生した場合の広報の在り方を考えてはどうか。
- ・ 総合演習とのつながりを上手に伝えることの工夫ができるかどうか。セキュリティはマネジメントが不可欠で重要だが、演習時間の設定が難しいと思われる。
- ・ 参加者レベルでの意識付けはできたが、大学に持ち帰ってどのように深めていくのかの計画があっても良いのではないか。担当者、責任者、経営者それぞれに対して求められる説明のイメージやシナリオが考えられないか。
- ・ 参加者が抱えている問題の把握について、ベンチマークテストを事前に実施して、その結果を講習会で活用してはどうか。
- ・ 経営者に報告する訓練としてのシュミレーションが考えられないか。演習では実際の経営層による対応 (ジャッジ) ができればなお良いのではないか。
- ・ 意見では SNS についての希望があったが、全体会でふれてはどうか。

- ・ マイナンバーは、保存ストレージとクラウドを使った暗号化の視点で説明してはどうか。説明資料は存在するがどうすればよいか理解できていないのが現状ではないか。年金や保険での扱いで関連機関との関わりが整理できていない。
- ・ 開催の周知が不足ではないか、開催報告だけでは不十分ではないか、例えば理事長宛に文書を提出するなどが必要ではないか。また、経営層に届けることでは、どのようなインシデントがあるのか、ベンチマークの結果を紹介する機会は持てないか。
- ・ 経営層が関心を示すような題材が必要ではないか。
- ・ 考えられる課題として、情報公表の安全性、外部環境でのセキュリティ担保、情報の重要度に応じたクラウド利用、暗号化、外部業者活用での注意点・基準、事後対応の体制・予算構築、初動から事後対応含めた演習など考えられ、事例を含めて紹介できないか。
- ・ 講習会の日程・期間は、二日間の開催で8月23日（火）、24日（水）で行うこと調整を進めていくことにした。

V. 次回のスケジュール

- ・ 次回の委員会は、4月21日（木）に開催し、開催要項の概要を検討することになっている。